

# 送った数だけコネが広がる

インターネットで

# 名刺交換!!

ビジネスの情報源や人脈作りに欠かせないのが名刺交換だ。渡した名刺、もらった名刺の数だけ、あなたのビジネススキルは上がっていく。でも、もらった名刺の整理は大変だし、部署や役職が変わるたびに再び交換……というのは面倒だ。そこで登場したのが、インターネット上で名刺交換ができる新サービス「socioware」だ。このサービスを使うと、もっとスマートに名刺交換ができるようになる。アナタも、さっそく使ってみよう!

橋 浩和

illust:Hasegawa Takako

みんなで使うと、便利さが膨らむ

## インターネットで名刺交換

いままで紙で行っていた名刺交換と、「socioware」で行う名刺交換とでは、どこがどう違うのか? ここでは、「socioware」でならでの利便性と、その魅力に迫ってみよう。

### 1 メールアドレスさえわかればウェブ上で名刺交換できる

sociowareは、ウェブ上で名刺交換を行う。自分のメールアドレスを登録し、オリジナルの名刺を作る。相手のメールアドレスさえわかれば、簡単に名刺交換ができる。



#### ★こんなときにアリガタイ

電話とメールだけで仕事が進むことも珍しくなくなってきた。直接、相手に会いたいが、ほかの仕事も忙しくて時間がとれない……なんてとき。

### 2 転職しても名刺の内容は自動更新できる!

作成した名刺は、いつでも自由に内容を変更できる。さらに、更新した名刺データは、いままで名刺交換した人に対して自動的に送られる。



#### ★こんなときにアリガタイ

転職したり、別の部署に異動になったりした際、いままでの取引先との付き合いも継続したいが、ハガキを出したり、挨拶に行ったりする時間がない……なんてとき。

### 3 受け取った名刺の整理も見やすいタブで楽勝!

交換した名刺のデータは、ウェブ上の「HOLDER」に保存される。データは五十音順に並べられ、検索もできる。また、個別にメモやメッセージも書き込める。



#### ★こんなときにアリガタイ

交換した名刺が山のようにたまり、整理するのも大変。中には相手を覚えていない名刺もあつたりして、「メモを取っておけばよかった」と後悔……なんてとき。

# 名刺を作って送ってみよう!

それでは、sociowareの具体的な使い方を説明しよう。まず、最初に行うユーザー登録と名刺の作り方から。いくら便利な仕組みであっても、実際に使わなければその恩恵は受けられない。登録・利用は無料なので、気楽に試してみよう。それでは、さっそくサイトにアクセスしてみよう。

Jump www.socioware.com



**1** sociowareのトップ画面。初めて使うときは自分のメールアドレスを入力する。一度登録が済めば、その後は自分で決めたユーザー名とパスワードを入れればOKだ。



**2** 最初に入力したメールアドレスに対して、確認メールが送信されてくる。メールに記載されている「確認番号」を入力して、ユーザー登録を続けよう。



**3** 続いて、自分の名前、ユーザー名、パスワードなどを入力していく。ここで設定した名前が、あとから作る名刺の基礎データとなるので、慎重に入力しよう。



**4** 基礎データだけを表示した簡易名刺が作られる。このままでも送れるが、もう少し情報を盛り込みたい。「日本語版の変更」をクリックして、次に進む。



**5** 名刺に記載する内容を細かく設定していく。仕事用の名刺の場合、社名、部署、住所、連絡先などは不可欠。入力が終わったら「保存」をクリックしよう。



**6** 必要事項をすべて記入し、完成した名刺を確認する。プロフィールの有無は、完全にユーザーの好み。仕事用なら無理に入れる必要はないかもしれない。



**7** 名刺が完成したら、メイン画面に進む。画面の上にあるタブをクリックすると、sociowareが用意している各種機能が使えるようになる。まずは「SEND」をクリック。



**8** 7を行うと、名刺を送りたい相手を指定する「リクエスト画面」になる。相手のメールアドレスとメッセージを入力しよう。さらに、「送信内容の確認」をクリック。



**9** 送り先と名刺の内容を確認しておく。初めて使うときには、名刺の内容に間違いがないかチェック。問題がなければ、「送信」をクリックする。

## 名刺交換を申し込まれたら？

# 積極的に交換していこう！

名刺交換を申し込むと、送信先のメールアドレスにデータが届く。相手がsociowareを使っていればメイン画面に、そうでなければ通常のメールで、名刺交換のリクエストが届く仕組みだ。誰かからリクエストが来たら、積極的に名刺交換していこう。名刺データは、多ければ多いほど効果を発揮する。



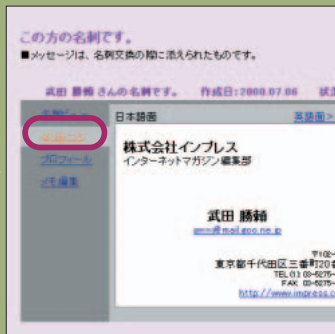
**1** 名刺交換を申し込まれると、メイン画面の「INBOX」の下に、何人から申し込みがあるかが表示される。さっそく「INBOX」タブをクリックして、名刺交換しよう。



**2** INBOXでは、名刺交換を申し込んだ相手のデータとメッセージが表示される。交換したい相手の名前（青く変わっている部分）をクリックしてみよう。



**3** を行うと、相手を送ってきた名刺の内容が表示される。記載された内容のうち、会社名などのデータは自動的に「メモの内容」欄に表示される。



**4** 左にある「メッセージ」をクリックすると、名刺に添えられたメッセージを確認できる。名刺交換時に自分で付けたメッセージも見られる。簡易メールとしても使えるだろう。



**5** 公私ともに付き合いのある相手には、自宅の連絡先なども付けておくといいかもしれない。ちなみに、公開されていないプロフィールは、上のように表示される。



**6** 双方のデータ交換が終わると、受け取った名刺と、相手に送った名刺の双方を並べて表示できる。これで、sociowareを使った名刺交換は無事に完了だ。

## めでたく交換し終えたら？

# サービスを使いこなそう！

sociowareには、単なる名刺交換以外にもさまざまな機能が用意されている。名刺の交換に慣れてきたら、いろいろなサービスを使っていこう。仕事にプライベートにと、多彩な用途に使えるsociowareをしゃぶり尽くそう。

### その1 HOLDERで 名刺を スッキリ整理

受け取った名刺は、「HOLDER」の中に五十音順、ABC順に並べられているので、目的の名刺を探すのは、とてもラクだ。しかもウェブ上にあるので、いつでもどこでもデータを見られる。



### その2 名刺にメモを 付けるのもOK

受け取った名刺には「メモ編集」でメモを書き込める。相手と会った場所、名刺を交換した日時などを記入しておけば、あとから「誰だったか？」などと忘れてしまうこともなくなる。





### その3 変更データは 自動更新！

いったん交換した名刺データに変更があっても安心。更新通知を送るだけだ。これで、同じ人の名刺が増えて整理に困ることはなくなるはず。実は一番便利な機能。相手のHOLDERでは、左のように表示される。



### その4 複数の名刺を 持つのもOK

sociowareでは、1人のユーザーが複数の名刺を作れる。プライベート用とビジネス用を使い分けたり、取引先に応じて内容を変えたり……など、使い方の幅は広い。「MY DATA」内の「新規作成」で名刺を追加できる。

これからはもっと便利に

## 年内中にさらにPOWER UP!



sociowareでは、年内中に、「PDA」や「携帯」などを用いて名刺交換できるようにする。 「 です。こんにちは」と挨拶をしたときに、それぞれが持っている携帯電話などでピピッと名刺の情報を交換できる。その内容がウェブに送られ、会社や家に帰ってsociowareで自分のページを見ると、挨拶をした当日に、交換した名刺のデータがアップされているというわけだ。

また、名刺を交換するごとに加算される「ソシオポイント」が飛行機のマイレージポイントとして使えるようになるといったウレシイサービスも予定している。

さらに、今後は自分の写真や会社のロゴを名刺に貼り付けたり、好みに応じてフォントを変えたり、さらには、スタンプ機能のようなものでイラストをポンポンと入れたりしてオリジナルの名刺も作れるようになる予定。こうした新機能によって、社会人以外の若い世代にもアピールするサービスを目指すという。

送った数だけコネが広がる

インターネットで

## 名刺交換!!

### INTERVIEW



佐々木裕彦  
ささき・ひろひこ

ソシオウェア・ドット・コム株式会社  
代表取締役社長

日本にあるネットビジネスは、「(米国の)モノマネビジネス」が多いでしょうか。ですから、日本から世界に出て行けるグローバルスタンダードなビジネスをやりたいと考えました。いままでも似たようなサービスはありましたが、「名刺交換に特化した」サービスは、世界初のものでしょうか。

ただし、われわれは“名刺交換.com”ではありません。軸となる考えは、“人與人”“人と法人”“人とサービス”といったさまざまな関係を管理できる環境を作りたい”というもので、われわれはこれを、「リレーションプラットフォーム」と呼んでいます。ただ、「リレーションプラ

トホームマネジメント」と言ってもわかりにくいと思うので、切り口として「名刺」というメタファーをあえて表に出し、その関係性を作ったのです。

われわれは、リアルな関係をバーチャルで管理していきたいと考えているので、いまず紙の名刺の文化にとって代わろうという気はないんです。むしろ、紙の名刺の文化を補充していくといったイメージですね。ただ、将来的には携帯やPDA端末で名刺交換そのものを行えるようにするので、それが実現すれば、恐らく紙による名刺交換の文化はなくなるでしょうね。(聞き手/編集部・談)



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)